

教科等研究会 中学校技術・家庭（家庭分野）令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「学びを生かし、豊かな人生を育む技術・家庭科教育」
～生活での気づき・発見が喜びに変わる「分かる・楽しい」授業づくりを通して～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回 (小中合同)			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
5/27	5人	甲佐中	8/2	5人	甲佐中	12/5	15人	蘇陽中	2/6	5人	甲佐中

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

本会では全員が免許外指導者という状況であり、各学校における指導の充実を図るためには何が必要だろうかということを考え、まず各担当者が疑問に思っていることや困っていることを事前に調査した。そして、授業を通して生徒に家庭分野の授業の重要性や必要性を感じさせたいと考えた。また、生活に生かせる力を養うために指導者の授業力の向上が一番重要であると考え、研究授業を行うこととした。なお、小学校家庭科部会と合同での授業研究会を行った。今年度は中学校の授業研究会に小学校家庭科部会の先生方にも参加してもらい、小学校の実践から学び、中学校の授業実践の更なる充実を図った。

ア 研究授業（12月5日 場所：蘇陽中学校）

「衣食住の生活」における「分かる・楽しい」授業の提案

授業者：蘇陽中学校 奥田 恭隆 教諭



写真1 導入の旬クイズの様子



写真2 話し合い活動の様子

(ア) 自評及び意見・感想

- 農家や野菜を作っている家庭が多く、保護者と食品を買いに行く生徒も多い実態がある。しかし、旬の季節やそのすごさについて知らない生徒が多く、旬の素晴らしさに気付かせたいと思い、この授業を設定した。生徒に考えさせて、生活経験から知識を引き出し、それを話し合い活動で深めることができたのはよかった。話し合い活動とまとめのところについて疑問があり、助言を頂きたい。（自評）
- 導入での旬クイズが取り入れられており、授業全体を通して生徒が楽しみながら学ぶ様子が多く見られ、主体的な姿がとてもよかった。
- 消費者として様々な視点を持つことが大切だと考えることができていた。旬についてそのすごさについてしっかりと考えることができていたと思う。家庭で農業をしている生徒は、消費者だけでなく生産者の視点でも考えることができていた。
- 話し合い活動は、人数が多く感じた。小学校では、人数を4人にして全員に役割を持たせている。話し合いの際は、伝えることと話し合う場面を分けてさせている。
- まとめは、生徒に任せると教師のねらいから逸脱しがちなので、教師主導で生徒とやり取りしながら行っている。まとめはめあてに立ち返れるようにすべきである。

② 内容B「衣食住の生活」における実技研修の実施

ミシンの糸の準備や扱う際の注意点について、実習しながら研修を行った。また、嘉島中の野口教諭に、県教育センターの免許外教員研修の復講をしてもらい、評価の進め方や注意点について研修を行った。最後は、益城中の甲斐講師に調理実習の事前準備や実習中のポイントなど、実際に調理実習を行いながら、研修を行った。



写真3 評価についての研修の様子



写真4 調理実習の様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

① 授業力向上を目的とした研究授業の実施

- 授業研究会を通してお互いの実践を深めることができた。また、会員が授業を行う上での悩みや工夫点についても情報を交換することができ、大変有意義であった。
- 小学校との合同の授業研究会では、小学校家庭科の視点からも意見交換ができた。小中で共に学ぶことであってもその学習の方法や形態、めあてが違うことが分かり、児童生徒の発達段階に合わせて学習方法や課題の提示の仕方を検討することの大切さを学ぶことができた。
- 授業の意図がよくわかる授業を見せることが出来ていたのがよかった。授業者の単なる思いだけでなく、生徒の実態や社会の情勢などを考えた授業設計が出来ていた。この教科では、これから社会に出て「自立」できる人となるための力を育てなければならない。参観者にはそれがしっかりと伝わっていた。
- 免許外指導者で構成されている部会のため、自分自身の授業実践で大丈夫なのかが不安である。お互いに授業を見合う中で意見を交換し、学んだことを自分の実践に生かしていることが最大の成果である。
- 小中共に部会員が少なく、授業者の選定に苦慮している。今後も特定の会員に偏ることなく、より多くの会員が授業を行い、幅広く研修を行えるようにしていかなければならない。

② 内容B「衣食住の生活」における実技研修の実施

- ミシンの基本的な使い方について、お互いに教えたり聞いたりしながら研修することができた。また、ミシンが壊れたり調子が悪いときの対処法についても触れることができ、原因と解決方法をしっかりと学ぶことができて良かった。
- 評価の方法については、なかなか学ぶ機会がないため、部会員にとってとても有意義であった。
- 部会員の困りごとが調理実習についてであった。この研修で、事前の準備や実習中に気をつけておかなければいけないことなど詳細にわたって学ぶことができた。特に、調理の過程や実習の方法など、普段一人では難しいことを相談しながら実習できたのがよかった。
- 昨年度は参加者が少なかったが、今年度は部会員全員が参加でき、研修することができた。来年度以降も部会員の要望に沿った研修を皆で行えるようにしていきたい。

4 実践事例

(1) 学習構想案抜粋 (蘇陽中 奥田教諭)

4 本時の学習

(1) 目標 ○生鮮食品について理解できる。

○旬の食品が一年中食べられる理由に気づき、旬の食品とそうでないものの違いが分かる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等) ★家庭学習のポイント
導入	10分	1 「旬」とは何か知る。 2 旬クイズに答える。 【めあて】「旬」のことが、より詳しくわかる！！	○旬とは、食品がたくさん出回る時期のことであることを知らせる。 ○クイズを通して、楽しみながらも旬への疑問(学習活動3)を抱かせるようにする。
展開	35分	3 様々な食材が旬に関係なく、一年中食べられる理由を考える。 ◇ビニールハウスで育てているから ◇食品を輸入しているから ◇保存して貯蔵しているから ◇養殖をしているから ◇地球温暖化の影響？ 4 旬の食材とそうでないものの違いを考える。 【中心発問】「旬」のものとはそうでないものの違いは何だろう？ ○個人→班→全体の順に共有する。 ◇値段、味(脂の乗り)、栄養価、色合い 【期待される学びの姿】 ○自分の考えを持ち、その考えを他者と共有しながら深めている姿。 5 旬とそうでないものの違いについての資料を見る。 ◇こんなにも栄養価が違うんだなあ。 ◇栄養価が高くて、味もいい、値段も安い。なんて、旬ってすごいなあ。 ◇旬のものを食べる方がお得だぞ。	○考えやすいように、いくつかの食品で例示を行う。 ○子どもの生活経験から様々な意見が出ることを予想される。肯定的に受け止めさせ、より意見を出しやすくする。 ○環境に起因する意見が出た場合は、とても重要なので、意識的にほめる。 ○違いについては、そう思った理由まで考えさせるようにする。 (課題解決に向けた見通しを持つ手立て) 食材の写真カードを提示し、それを見て考えることで、違いがイメージしやすくなるようにする。 ○資料は以下の①～③を提示する。 ① 季節によるいちごの流通量比較グラフ ② ほうれん草の栄養素量比較グラフ ③ みかんの流通量と価格のグラフ 【具体的評価規準】 知識・理解 ○生鮮食品の特徴が理解できる。それが一年中食べられる理由を考え、旬のものとはそうでないものとの違いを考え、説明できる。(方法:ワークシート)
終末	5分	6 本時のまとめをする。 【まとめ】食品には「旬」の季節があり、旬のものは栄養価が高く、価格も安い。 7 一枚の写真を見て、その謎に気付く。 ◇カツオの旬はいつだろう。 ◇春や秋のどちらが旬なのか。 ◇どちらの方がおいしいのだろう。	★カツオの写真を提示し、あえて正解を伝えず、実生活で確認させるようにする。 (春→初鰹、秋→戻り鰹)

第1学年 技術・家庭科 家庭分野 学習ワークシート

1年 ()組 ()番 氏名 ()

学習のめあて

1. 次の () にあてはる言葉を入れましょう。

() 食品・・・野菜、魚、肉などの原料に手を加えて、保存性を高め調理しやすくした食品。

() 食品・・・野菜や果物、魚、肉などの生産地でとれたままの形と鮮度をほぼ保っている食品。

() ……生鮮食品がたくさん出荷される(収穫される)時期のこと。

2. 色んな食材が () に関係なく、一年中食べられるのはどうしてでしょうか？

3. () のものとそうでないものは何が違うのだろう？

4. まとめ

食品には () の季節があり、旬のものは、() 。

5. 授業の感想を書きましょう。